

第2回専門部会（8/30）における
委員からの意見とその対応等について

「グリーン電力証書」について
<ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギーにより発電して、その発電量について取引できるよう証書化したもの。 ・例えば、グリーン電力証書を買うことにより太陽光発電による電力を使ったとみなすことで、購入者としてはお金に代えてCO₂を排出しなかった（カーボンオフセット）ことになり、売電する側としては証書を買うために支払ったお金が、次の太陽光発電設備をつくるための投資になる。

施策体系（資料2）と重点的に取り組む施策のアイデア（資料3）の関係について
<ul style="list-style-type: none"> ・資料2が仙台市として取り組む施策を網羅的に書いたもので、国がやるもの、仙台市でやるもの、両方が入っている。その中でも、重点的に取り組むものを資料3に記載している。 ・仙台の特徴を考えて、建設的にご意見を出してほしい <p>→施策体系と重点プロジェクトの位置づけについては計画本文においてわかりやすく説明する予定</p>

適応策について
<ul style="list-style-type: none"> ・実感としてわからないものを人々は続けることはできるのか。もう少し自分により近いところで戻ってくるような施策を考えないと長続きせず、参加ということを考えると、適応策的なところをもう少し考えたほうがいいのか。 ・CO₂が世界の温暖化へ与える影響を考えるとCO₂排出をなるべく抑えることがまず基本になると考える。 ・100年確率で起きるような災害に対する対策について、本計画で書き込むのは難しいが、緑を増やす、透水性舗装にするなど、緩和効果という部分での適応策は、書き込んでいけるのではないかとと思う。 ・気温の上昇により、山にいる昆虫は上のほうに逃げるしかないが、生態系ネットワークが南北東西縦横につながっていると逃げ道があるなど、記述を工夫させていただきたい。 <p>→緩和策に関する施策について資料3 P6に反映</p>

市民が実感をもって励むことができるような具体的な適応策について
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の庭で水を貯められるようにする、緑を増やすなど、ヒートアイランドが防げて、夏場の冷房のためのエネルギー消費が減るといように、自分としては目にみえるところで涼しくなるなどが考えられる。 ・緑をキーワードに夏の温度を上げずに、仙台の自然を守っていきながら、結果としてCO₂排出も抑えられるというようなことを一つ書けるとよい ・定禅寺通のような木陰があると、暑くて家の中にいようという気持ちも緩和されて、人が街中に出てくることにもつながるのではないかと。 ・温暖化そのものはどうしても進んでいく。今、打てる手として、間伐を進めるなど山と川の関係をもっと少しきちんと直しておくことだと思う。少し長い目で見て、もう少し温度が上がった場合の対

策ももう少し書き込んでほしい。仙台には山から海まであるので、そういう仙台らしい部分でできるのではないかと思う。

→市民が実感しながら取り組んでいくものとして重点プロジェクト5を設定

民生部門の重点化について

- ・今回の重点施策には民生部門の書き込みがなく、家庭における二酸化炭素排出量削減の方策が抜けている。緑のカーテン、天水桶に水を貯めて、昔ながらの水まきをするなど、地道なところであることを、一つひとつやっていくことの大切さも盛込んでいただきたい
- ・しっかり減らしたうえで、やり甲斐があって、それが対応策にもなるというものを上手に書いていくようにできればと思う。

→市民が実感しながら取り組んでいくものとして重点プロジェクト5を設定

市民に取り組んでいただきたいことについて

- ・資料2の施策体系を見ていて、これは誰がするのかといえば、市がすることだと見ていたが、資料3を見ると市民がすることしか書いていない。市がやること、市民がやること両方揃って意味を持つものではないのか。
- ・資料2の施策体系は市がやるものであるが、市民や事業者が参加し、自ら実践されてできることである。資料3は、基本的には市が主体となって重点的にやらなければいけないことを書き込んでいる。市民等にやっていただきたいことを配慮指針として本計画にも盛り込みたいと考えているが、市がやらなければいけないこととして、社会全体の仕組みを設計して、その仕組みに参加してCO2につなげていけるようにすることと考える。
- ・市民のレベルで運転時にバスに道を譲るなど考えてもらわなくてはいけないことは市が言っていない。ただし、計画としてわかりにくくなる可能性があることを考慮しなくてはならない。
- ・例えば、水まきプロジェクトや緑のカーテンを仙台が重点的に、特徴として取り組むものとして、プロジェクト化してはどうか。

→市民に取り組んでいただきたいことについては計画の行動の指針において記述し、市民への浸透を検討予定

→特徴的な取組みについては重点プロジェクト5として設定

交通部門の重点プロジェクトについて

- ・公共交通機関を使って下さいという精神が総合的に今までの仙台市の政策の中に市民は感じられていないのではないか。ドイツやフランスできることがどうして日本でできないのか。できるように法律を変えてもらって、便利でひいては低炭素社会実現に向けた方策を実現すればいいのではないか。そういうことを書き込みたい。
- ・平成27年くらいまでは、今つくられている交通プランに沿って、資料3にあるようにやれる限りのことはどんどんやっていけばいいと思う。平成27年から後については、私たちはこういうこと

が必要だと国に働きかけ、国のシステム、あるいは特区でもいいから仙台では変えていくことが必要ではないか。

- かつてのスパイクタイヤによる粉じん公害のように、交通の分野においても、仙台での画期的な取組みを是非していただきたい。
- 仙台では、違うやり方があることを示すことが、これだけの大学を抱えている都市である仙台に求められている役割なのではないか。できること、わかっていることだけを書き込んで、チャレンジなことが抜けている。27年度までの5年間はチャレンジなことを書き込むことは難しいかもしれないが、その後の5年でできることはもっとあるだろう。交通の問題でいえば、運賃制度は法律上の問題があるが、もっと使ってもらう視点から、運賃制度を考えてみるべき。
- 交通システムにとっては、仙台くらいの規模の都市が10年後、15年後にどのような料金体系が理想なのか書くべきではないか。こういうのが一つのあり方だと書いたほうがいいのではないか。
- 小さな努力だが、これで早く変わったといういろんな成功体験を見せてあげるような役割として、小さな地域を特定の決めて、そこで集中的にいくつもやるという方法が正しいのではないか。制度の問題は、制度の問題として考えなくてはいけませんが、プロジェクトというのとは違うのではないか。
- 交通体系を変えるプロジェクトという考え方もできる。
- 少しお金を出しても便利で楽な方法を選ぶ人もおり、料金の面で、交通体系が変わって、市民の方々がどれだけ公共交通を利用するようになるのか、きちんと検討しておく必要があるのではないか。
- 「少し先をにらんだ挑戦課題」という視点を入れていただきたい。(後日メールにて提出)

→中長期的に交通体系を検討する体制を含め重点プロジェクト1として設定

仙台らしいエネルギー対策について

- 仙台でいろいろデータをとってみると、冬場にエネルギーに結構使っている。対策的なところでは、もう少し冬場のエネルギー消費を抑えるかについても議論すべきだと思う。
- 仙台市で余っている土地、埋立地などにメガソーラレベルのものを建設してCO₂を削減できるというかと思う。都市部で温度下げるには緑を増やすというところでやっていかなければならない。都市部では、建物も増え、高層化しているので、CO₂を抑えるのは難しい。交通の部分での思い切った取組みも必要かと思うが、そういうところは中長期的な部分にかかるので、短期的なところではどうしたらいいかについても考えていく必要がある。
- 日照時間が長く、太陽光発電に向いているのが、仙台の大きな特徴
- 泉ヶ岳では風が強すぎ、海辺はバードストライキングの問題があり、仙台には風力発電に適した良い場所がない。
- 地下鉄東西線について、太陽光発電による電力、市民共同発電などを検討すると特徴的な取組みができると思う。

→エネルギーをまちの視点から検討する重点プロジェクト4として設定

バイオマス利用について

- ・仙台市内の量がよくわからない部分があるが、バイオマス資源は相当使えるのではないかと思う。
- ・コミュニティをどうやって作っていくかも非常に重要になってくると思うが、市がやることと市民に協力を求めることについても書いていく
- ・森林資源の利用について「コミュニティ形成の促進」という視点を追加していただきたい。(後日メールにて提出)
- ・緑の循環プロジェクト又は別立てとして、「森林における間伐の促進」を取り上げて頂きたい。後日メールにて提出)

→バイオマスの利用促進について積極的に進めるため重点プロジェクト3として設定

プロジェクトの設定について

- ・公共交通がプロジェクトとして一つの核になる。
- ・ビジネスのグリーン化については、仙台は中小企業の比率が非常に高いということで、国が拾っていないところがあるとしたら、その部分について具体的に市が施策体系として設計するものと、ビジネス側に求めるものを上手に両立できるようなこれから案を練る必要があるかと思う。
- ・4番目のプロジェクトとして、緑というものを個人レベルで増やし、山も含めてたグリーンベルト、街の中から郊外まで総合的に見直して、杜の都をより温暖化対応型につくり直していくというのがよいか。
- ・緑だけでなく、水まきプロジェクトのようなもので、河川のクーリング効果が大きいということもあるので、水・緑でかいたほうが広いかもしれない。
- ・「グリーン」「緑」の用語について整理願いたい。
- ・木を循環させるのが、3番目のプロジェクト。その他に、植物や水、太陽光など、このような自然の恵みをどうやって仙台市という人口100万だが市域が広いような都市で、最適に設計するか、いかに目標にむかって活用を促す仕組みをつくるかを4番目のプロジェクトにしてはどうか。
- ・樹木のバイオマスについて、ガス化して都市ガスに混ぜる、排水処理施設の汚泥のメタン発酵によるコージェネレーションシステムなど、木質ガスと都市ガスとうまく活用して、カーボンニュートラルな発電をしていくのも一つの方法だと思う。
- ・間伐材や林地残材をつかって、ガス化してさらに燃料するなどして、小さな町ではまちおこしとしてやっている所もある。発想としては良いが、仙台は規模が大きすぎるかもしれない。ただ、木材というのは相当いろいろ活用できると思う。
- ・他のプロジェクトと重なるところがあるかもしれないが、再生可能エネルギーの大規模活用ではどうか
- ・3つのプロジェクトのつながりみたいなもの、電気自動車の電源を木質やメガソーラーで供給するなど、10年くらいしたら普及するであろうものも射程に入れたらいいのではないか。都市の冷暖房システムも含め、横断的なもの、それもビジネスになっていくようなものがこの3つのプロジェクトにつながっていくと思う。
- ・エネルギーをつくる部分というのは、すべてのプロジェクトを支える基盤という形で考えてはどうか。

- ・もし国の法律とか日本の社会のものの考え方が妨げになるような要因であれば、特区をつくるということも必要かと思う。
- ・仙台には地域冷暖房がなく、都市型であれば必要かと思う。議論に出なかったが、一つ中に入れてほしい。
- ・仙台における事例として、泉中央セルバ、鶴ヶ谷団地がある。
- ・コージェネレーションシステムで特にいいのは、お湯が使えることで、病院などに適している。

→重点プロジェクトとして5つ設定

人づくりについて

- ・少子高齢化が進む、人口が減るといってお書きになるが、仙台は日本の中でもっとも若者を集める力がある都市である。平均年齢でいうと、仙台は学生が多くて政令指定都市の中で3番目に若い。だから、この資料2にある人づくりのところは、仙台とし役割として果たしていかなくてはいけない。学都というところという、低炭素な技術的なマッチング。それを先駆的につかっていく人を育てていくのも大きなテーマであると思う。
- ・自然環境等も含め、仙台市環境基本計画で書くということにしたい。